

福島第一原子力発電所の状況

平成 26 年 6 月 5 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (6/5 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力	原子炉格納容器 水素濃度	
1号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 1.9 m ³ /h	23.3	4.0 kPa g	A系： 0.00	Vol%
		給水系：約 2.5 m ³ /h			B系： 0.02	Vol%
2号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.5 m ³ /h	32.6	5.90 kPa g	A系： 0.07	Vol%
		給水系：約 2.0 m ³ /h			B系： 0.07	Vol%
3号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.3 m ³ /h	29.8	0.23 kPa g	A系： 0.05	Vol%
		給水系：約 2.0 m ³ /h			B系： 0.06	Vol%

電源停止作業に伴いデータ欠測

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (6/5 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	24.0
2号機	循環冷却システム	運転中	22.4
3号機	循環冷却システム	運転中	22.3
4号機	循環冷却システム	運転中	22.8

各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘビドラジンの注入を適宜実施。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	3号機タービン建屋	5/29 10:35 ~ 6/5 9:07 移送実施
3号機	3号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設(プロセス主建屋)	5/19 10:06 ~ 6/5 9:29 移送実施

< 4. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (6/5 11:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種除去設備 (ALPS)
運転 状況	停止中 ^{*1}	停止中 ^{*1}	停止中	水バランスを みて断続運転	水バランスを みて断続運転	ホット試験中 ^{*2}

*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。

*2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

< 5. その他 >

・H26/6/2 10:19~13:42 地下水バイパス一時貯留タンク(Gr2)に貯留してある水について、当社および第三者機関による分析結果において、運用目標値を満足していることを確認したことから、海洋への排水を実施(排水量 833トン)。

同日、この際の南放水口付近の海水についてサンプリングを実施し、前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

・H26/1/29 ~ 2号機海水配管トレンチ凍結止水工事における凍結管を設置するための削孔について、凍結管を設置するための削孔を実施中。削孔作業と並行して、3/27より挿入作業ができるようになった孔から順次、凍結管およびパッカー挿入の作業を開始。

4/2 ~ 挿入が完了した凍結管について凍結を開始。

4/28 ~ 4/26 に全 17 本の凍結管の挿入作業、そのうち 13 本のパッカー設置作業が終了したことから、凍結管全 17 本の凍結運転を開始。今後、1ヶ月程度で凍結の壁を造成していく予定であり(6月頃完了予定)、凍結状況については、測温管にて確認していく。

・H26/3/14 13:35 ~ 共用プール西側において、凍土遮水壁の実証試験(凍結試験)を開始。

・H26/6/2 ~ 凍土遮水壁工事を開始。

・H26/6/2 15:00 頃 汚染水タンクエリアに設置してある 4,000 トンノッチタンク群における 2 つのタンクの側面上部のボルト付近から水が漏れていることを、パトロール中の原子力規制庁保安検査官が発見。

その後、当社社員による現場確認において、当該ボルト部から 1 秒に 1 滴程度の水漏れがあることを確認した。当該ノッチタンクには汚染水タンク堰内に溜まった雨水を溜めている。漏えいした水は堰内に留まっており、堰外への漏えいはない。

19:40 頃 当該タンク群の水を別のタンク群に移送して水位を低下させたことにより、漏えいが停止したことを確認。

当該タンク内水および堰内溜まり水を分析した結果、セシウム 134 と 137 はいずれも検出限界値未満、全ベータ値は当該タンク内水では 72,000Bq/L、当該タンク堰内溜まり水では 9,800Bq/L だった。

なお、堰内雨水の排出基準()と比較すると、セシウム 134 と 137 は排出基準を下回っているが、全ベータ値については、堰内雨水のストロンチウム 90 の排出基準と照らし合わせて高い値となっている。

参考 堰内雨水排出基準:

- ・セシウム 134: 15 Bq/L 未満
- ・セシウム 137: 25 Bq/L 未満
- ・その他のガンマ核種が検出されていないこと(天然核種を除く)
- ・ストロンチウム 90: 10 Bq/L 未満(簡易測定法により計測)
- ・タンク内の水質等を参考に、他の核種も含めて告示濃度基準を満たすこと

また、当該タンク内水の分析結果に比べ堰内溜まり水の分析結果の値が小さくなっているのは、タンクから漏えいした水が堰内に溜まっていた雨水と混ざり薄まったものと考えている。

< 当該タンク内水の分析結果(6/2 採取) >

- セシウム 134: 検出限界値未満(検出限界値: 13Bq/L)
- セシウム 137: 検出限界値未満(検出限界値: 18Bq/L)
- 全ベータ : 72,000Bq/L

< 当該タンク堰内溜まり水の分析結果(6/2 採取) >

- セシウム 134: 検出限界値未満(検出限界値: 12Bq/L)
- セシウム 137: 検出限界値未満(検出限界値: 17Bq/L)
- 全ベータ : 9,800Bq/L

・当該の漏えいに関する、その後の調査結果については以下のとおり。

【漏えいに至った推定原因】

H25/10 月頃、当該ノッチタンク群に堰内雨水(H25/8 月に漏えいが発生した H4 エリア堰内雨水を含む)の移送を実施し、その際、ノッチタンク天板からの水位を 20 ~ 30cm で移送を終了。その後、タンク天板の開口部から雨水が進入しタンク水位が徐々に上昇したため、タンク天板上部から 11cm 下にあるボルト穴から滴下に至ったものと推定。

・漏えい水が混入したノッチタンク群周辺堰内の溜まった水(約 4m³)については回収を完了。なお、漏えい発見時において堰外への漏えいがないことを確認しているが、当該堰については、堰内雨水を一時貯留するものであったことから、管理対象外としていた。また、漏えい範囲については、堰外も含めて調査を継続する。

【地下水バイパス揚水井の状況】

・地下水バイパス揚水井 No.1 ~ 12 のサンプリングを継続実施中。

< 最新のサンプリング実績 >

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【H4, H6 エリアタンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連】

< H4 エリア周辺のサンプリング実績 >

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

< 福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績 >

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

< H6エリア周辺のサンプリング実績 >

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

[焼却工作建屋の水位・焼却工作建屋サブドレン水の分析結果]

< トピックス >

・H26/4/14～ 集中廃棄物処理施設4カ所(プロセス主建屋、高温焼却炉建屋、サイトバンク建屋、焼却工作建屋)のうち、3カ所間において、通常使用していない以下の滞留水移送ラインに設置してある仮設ポンプ(4台)が運転中であり、焼却工作建屋地下1階の全域に滞留水が広がっていることが確認されたことから、常設水位計による常時監視ならびに、焼却工作建屋のサブドレン水の分析を強化中。

5/26 10:52～ 焼却工作建屋滞留水のうち焼却建屋側からプロセス主建屋への移送を開始。また、移送開始後に漏えい等の異常がないことを確認。なお、本移送については、6月上旬頃まで行う予定(平日の日中のみ実施)。

< 最新の水位 >

焼却建屋:5/26 よりプロセス主建屋へ随時移送中。

工作建屋:5/16 10:30 回収作業が完了。

< 最新のサンプリング実績 >

・大きな変動は確認されていない。

[タービン建屋東側の地下水調査 / 対策工事の実施状況]

< 地下水観測孔サンプリング実績 >

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

[地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績]

< 地下貯水槽サンプリング実績 >

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

以上